

# 水稻早期栽培前作用極早生菜種の移植時期と 苗床日数について

新屋 明・\*丸野俊徳\*・柳 員幸\*

SHINYA, A., MARUNO, T. and YANAGI, K.  
Studies on the Transplanting Time and Duration of Nursery Period  
of Earlier Ripening Rape Variety Preceded the Paddy Rice  
Plant in Early-sowing Cultivation System.

I. 緒言 熊毛地方においては昭和16年より、水稻は全面的に早期栽培に切替えられて今日に及んでいるが、その跡作には離島という立地条件の不利から、そ菜園芸の面でも伸びず、水田は湿田を除きその殆んどはレンゲ・ルーピン等の緑肥作物が栽培されている現状にあり、早期水稻跡作に何を入れるかは今後の大きな研究課題であろう。筆者等は早期水稻を主軸とする作付体系化試験の一環として、早生菜種導入の可能性を把握しておくことは、今後作付体系確立上意義ある問題と思われたので、本試験を昭和31年より同33年まで3カ年間で実施した。

なお栽培に当っては検討すべき不備な点も多いが、取敢えず早期水稻前作に早生菜種導入は実用的可能性の高い結果を得たので、ここにその概要を報告する。

## II. 試験方法

- 1) 供試年度 昭和31~33年、2) 供試品種 ミチノクナタネ、3) 1区面積及び区制 1区9.9m<sup>2</sup> 2区制、4) 試験区の構成

第1表 試験区の構成

試験番号	播種期	苗床日数	移植期
	(月.日)	(日)	(月.日)
1	8.20	40	9.29
2	8.20	50	10.9
3	8.20	60	10.19
4	8.30	40	10.9
5	8.30	50	10.19
6	8.30	60	10.29
7	9.9	40	10.19
8	9.9	50	10.29
9	9.19	50	11.8

仕立方 1回移植苗、(口)木圃施肥量(10a当り)

堆肥 1,134.4kg, 硫酸 15.1kg, 過石 30.2kg, 塩

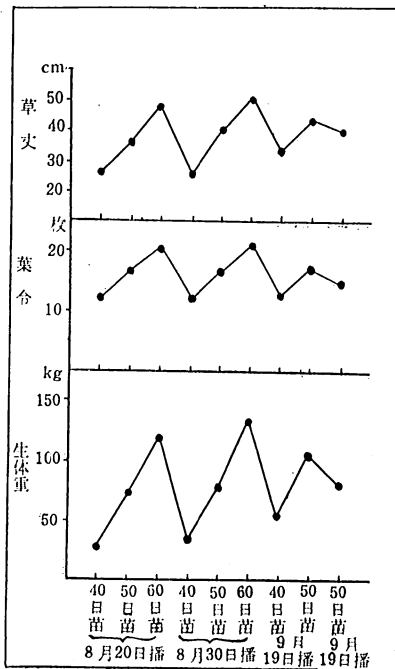
加 7.6kg を基肥とし、硫酸 11.3kg づつを抽苔期と開花期にそれぞれ追肥した。

(ハ) 栽培様式 畦巾 152cm, 条間 61cm, 株間 36cm の千鳥植, 10a 当り 3,630 本植。

## III. 試験成績及び考察

### 1) 苗の生育状況について

第1図 移植時の草丈・葉令・生体重  
の比較 (3ヶ年平均)



苗の生育状況は第1図に示すように、移植時の草丈・葉令、生体重についてみると、各播種期とも苗床日数の長いほど生育も進み良い苗が得られたが、60日苗は40日苗及び50日苗に比べ徒長気味で

あつた。また苗の生育を播種期別の同一苗床日数でみてみると、9月9日播のものが最も順調な経過を示しているが、これは8月20日播と同30日播のものは昭和31年と同32年に台風の被害を受けたため生育が若干9月9日播に劣つたものと思われる。

## 2) 本圃での生育状況について

活着は各播種期とも良好であつた。生育は若苗を早く植付けたものほど良好で、熟苗や晩苗になるに従い生育も遅れ、この生育の遅れの差を生育後期になつても縮めることができず、結局この生育の差が収量面に大きく影響していると考えられる。

## 3) 生育及び収量について

(イ) 抽苔期、開花期：第2表及び第2図に示すとおり、播種期が同一の場合は苗床日数の短い40日苗を早く植付けたものほど早く、移植期が同一の場合は苗床日数の長い60日苗、次いで50日苗の順に早くなっている。

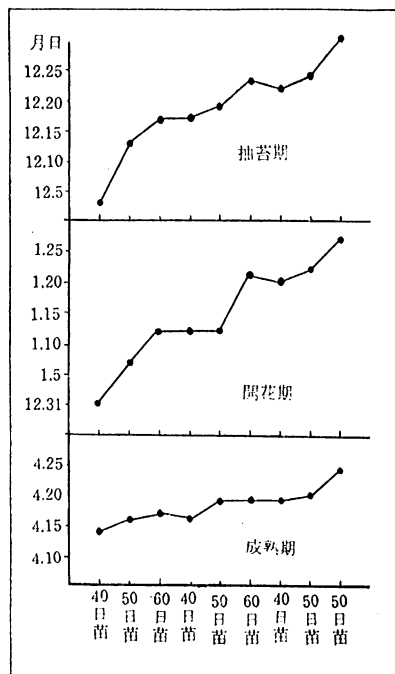
(ロ) 成熟期：抽苔期、開花期と同一傾向にあり、早播き早植えすることによつて大体4月中旬頃迄には成熟期に達する。このことは熊本地方での水稻の植付適期が4月中、下旬であることから水稻前作としても十分はいり得る可能性のあることを示すものである。

(ハ) 1次分枝数、総分枝数：第3図をみれば解るとおり一般に苗床日数の短いほど多く、しかも植付時期が早いほど多い傾向がみられる。

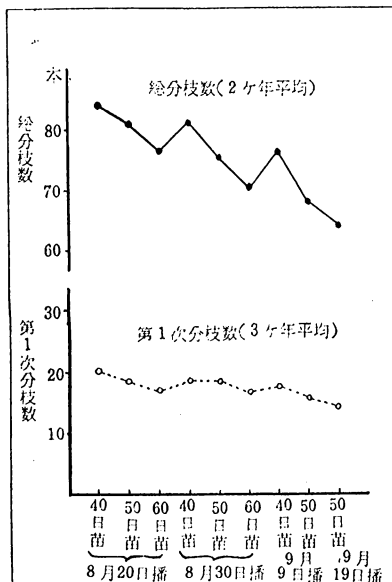
(ニ) 草丈、穂数：移植時期の早晩や苗床日数の長短による、生育上の差はその年の気象条件、その他の要因による影響をうけているため、一定の傾向は認められなかつた。

(ホ) 収量：第4図に示す如く、苗床日数間では40日苗区が最も多収で、これより苗床日数が長くなるに

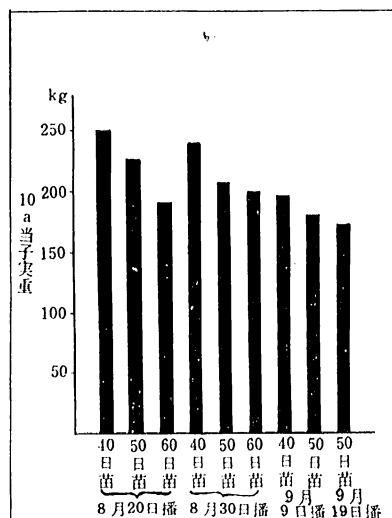
第2図 抽苔期・開花期・成熟期の比較 (3ヶ年平均)



第3図 第1次分枝数及び総分枝数比較



第4図 10a当り子実重比較 (3ヶ年平均)



従つて減収している。また移植期間では早く植付けた区が晩植区よりも多収で早播き早植えが好結果を示している。

この増収の原因

としては早播き、早植えによつて生育期間を長くしたということと、熟期の促進により菌核病の発生が少なくなつたことが大きく影響しているものと思われる。

IV. 結言 以上の成績より極早生菜種ミチノクナタネは早播き早植えすることによつて、熟期の促進がなされ、しかも増収効果の大きいことが判明した。苗床

第 2 表 生育及び収量調査成績

区 番号	項目 年次	抽苔期	開花期	成熟期	草丈	穂長	第1次 分枝数	總分 枝数	1 穂 莢数	10a 当 子実重
		(月,日)	(月,日)	(月,日)	(cm)	(cm)	(本)	(本)	(本)	(kg)
1	31年	12. 9	1. 7	4.22	145.2	39.0	23.3	—	42	298.9
	32	11.26	12.24	4.13	141.0	50.0	16.7	71.0	46	194.0
	33	12. 3	12.31	4. 8	151.3	44.4	21.3	96.9	37	262.5
	平均	12. 3	12.31	4.14	145.8	44.5	20.4	84.0	42	251.8
2	31	12.25	1.14	4.24	157.4	38.9	21.8	—	47	270.0
	32	12. 5	1. 3	4.16	141.6	42.9	16.5	71.3	45	173.0
	33	12.10	1. 3	4. 9	148.2	40.7	17.5	91.4	41	240.3
	平均	12.13	1. 7	4.16	149.1	40.8	18.6	81.4	44	227.8
3	31	12.28	1.21	4.25	155.0	39.7	18.7	—	49	212.1
	32	12. 9	1. 7	4.17	143.5	44.3	15.6	62.9	48	154.9
	33	12.13	1. 9	4.10	148.5	37.9	17.0	88.7	43	208.5
	平均	12.17	1.12	4.17	149.0	40.6	17.1	75.8	47	191.8
4	31	12.30	1.21	4.24	163.4	39.4	20.6	—	47	278.0
	32	12. 6	1. 4	4.15	150.0	44.1	17.4	73.6	47	225.8
	33	12.15	1.11	4.10	153.0	37.9	17.6	88.7	37	224.6
	平均	12.17	1.12	4.16	152.1	40.5	18.5	81.2	44	242.8
5	31	12.29	1.21	4.27	154.0	40.2	21.5	—	49	235.4
	32	12.11	1. 8	4.18	145.3	42.0	17.3	67.7	43	179.8
	33	12.18	1.21	4.11	151.5	36.6	17.0	83.3	41	206.9
	平均	12.19	1.17	4.19	150.3	39.6	18.6	75.5	44	207.4
6	31	1. 4	1.24	4.28	149.7	37.9	17.6	—	42	227.5
	32	12.12	1.12	4.17	144.2	45.4	15.3	62.3	42	181.0
	33	12.23	1.26	4.13	145.3	35.3	16.6	77.3	41	188.6
	平均	12.23	1.21	4.19	146.4	39.5	16.5	69.8	42	199.0
7	31	1. 3	1.26	4.28	158.6	39.5	20.4	—	49	223.5
	32	12.10	1.10	4.17	144.5	42.8	16.4	66.7	42	169.0
	33	12.21	1.23	4.12	149.4	33.9	16.8	86.8	42	199.1
	平均	12.22	1.20	4.19	150.8	38.7	17.5	76.8	44	197.2
8	31	1. 5	1.28	4.30	152.8	35.9	17.8	—	48	207.4
	32	12.11	1.11	4.18	132.9	48.2	12.3	56.1	46	142.4
	33	12.25	1.27	4.13	146.8	35.4	16.3	80.7	40	191.0
	平均	12.24	1.22	4.20	144.2	39.8	15.5	68.4	45	180.3
9	31	1.13	2. 5	(5. 5)	148.3	32.6	17.0	—	44	187.2
	32	12.18	1.13	4.20	138.2	47.1	11.9	54.6	49	159.9
	33	12.30	2. 2	4.18	144.7	39.1	14.2	73.2	37	174.0
	平均	12.31	1.27	4.24	143.7	39.7	14.0	63.9	43	173.7

日数は40日苗程度，移植期は10

月上，中旬頃迄に植えつければ適期田植に間に合せることができ、

早期水稲前作としての早生菜種の

導入は可能で実用性の高いものと

思われる。なお、この早播き早植

えの栽培法は畑作における輪作

体系の一部門に組入れることによ

り、その応用範囲は広くなり、且

つ多収性の故をもつてしても農家

経営上利点の多い栽培法であると

考えられる。しかしながら本試験

は移植時期と苗床日数のみについ

て検討したので栽植密度、施肥法、

直播栽培との比較等未解決の問題

が残されているが、これらについ

ては別途究明の必要があろう。